

令和3年1月29日

校長室だより

第 10 号

座間市立相模中学校
校長 金子 憲勝



《来週は節分です》

眼軸近視について～20分間・20秒・20フィート（6m）の取り組み～

校長室だよりの第9号に「スマートフォンやパソコン、ゲーム機等の使用に関する調査結果」についての報告を載せましたが、お読みいただけましたでしょうか。実は、私はこの「ゲーム機等の使用に関する件」については大変危機感を持っているので、小学校とも連携して取り組みたいと考えています。そのため、相模が丘小学校と相模野小学校にも校長室だよりを届け、小学校と中学校とが連携して取り組んでいけるように両校の校長先生と話しています。保護者の皆様、その後お子様とゲーム機等の使用の約束事について話をされましたか。まだ、使用についての約束事がないご家庭は、是非使用についてお子様と話し合ってくださいと思います。

このゲーム機等の使用に関連して、24日（日）午後9時のNHK特集で現代の子どもたちに広がっている『眼軸近視』についての番組をやっていました。私は、この番組を見て、この内容は本校の教職員や保護者の方に絶対に伝えないといけないと思いましたので、早速25日（月）に教職員に伝えました。去年は、感染症の影響で学校が休校になった期間が長かったので、この『眼軸近視』が子どもたちの間で急増しているそうです。この近視により、頭痛を引き起こしたり、将来うつ傾向になったりする人もいるとのことでした。それでは、この近視を予防する方法は何かというと、『20分間近くの物を見た後は、20秒間20フィート（6m）以上遠い物を見ること』が有効だそうです。また、近い物を見る時はできるだけ30cm以上離して見たり、字を書いたりすることが大切だとのことでした。（私が子どものころは、30cm以上物を離して本を読みなさいとよく家族や先生から注意されました。）この1年間で視力が低下している人は、特に上記の点を意識して欲しいと思い、皆様に紹介しました。



新しい学習指導要領について

中学校においては、今年の4月から新しい学習指導要領が完全実施になります。

この学習指導要領とは、全国どこの学校でも一定の教育水準を保つために、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準のことでほぼ10年に一度改訂されます。相模中学校では、この新しい学習指導要領が求めている「主体的・対話的で深い学び」について、昨年度から研究を続けています。どのような授業をする必要があるのかについて、横浜国立大学の加藤圭司教授をお招きし、何度も研究協議を重ねてきました。その結果、生徒たちからの授業の分かりやすさ等に関する評価は高くなっており、嬉しい結果が出ています。（詳細は、年度末に配付する学校評価アンケート結果に記載しますので、楽しみにお待ちください。）

新しい学習指導要領が完全実施になるため、通知表の観点別の評価が以下のように変わります。

観点別の評価は、今年度までは教科によって観点の数が違っていましたが、4月からは全ての教科が**3観点**になります。その3観点とは、(1)**知識及び技能**、(2)**思考力・判断力・表現力**、(3)**学びに向かう力・人間性等**です。子どもたちが「何を知っているか、何ができるのか」といった**知識及び理解**、さらには「知っていること・できることをどう使うか」といった**思考力・判断力・表現力**、そして「どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか」といった**学びに向かう力・人間性等**の3本柱です。

なお、この学習評価については、本日より一緒に配付した神奈川県教育委員会からのプリントもお読みいただけると分かりやすいと思いますので、そちらのプリントもご確認ください。